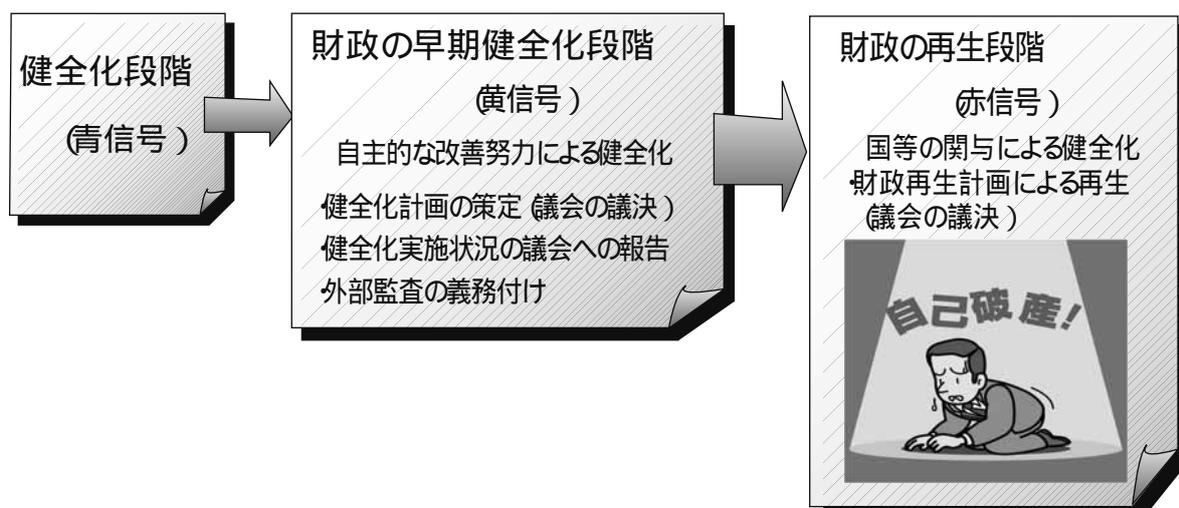


## 地方公共団体の財政状況による段階



## 各段階における財政判断指標

		早期健全化基準 (黄信号)	再生段階基準 (赤信号)
実質赤字比率	一般会計など税金を主な収入源とする会計の収支が、赤字なのか黒字なのかを見るための指標です。赤字の時に、赤字額を標準的な収入額と比べて、赤字の大きさを見ます。	15%	20%
連結実質赤字比率	全ての会計の収支(黒字・赤字)を足しあわせて、町のトータルとして収支が赤字なのか黒字なのかを見るための指標です。赤字の時に、赤字額を標準的な収入額と比べて赤字の大きさを見ます。	20%	40% (注1)
実質公債費比率	その年度の歳出の中で、過去に行った借金の返済に充てられた額がどの程度の大きさなのかを見る指標です。典型的な借金である地方債の返済に充てられた額に加え、債務負担行為に基づく支払いなど、いわゆる借金的なものが全て含まれます。	25%	35%
将来負担比率	町がどの程度将来支払いをすべき借金のものを背負っているかを見るための指標です。借金額を標準的な収入額と比べて、借金の大きさを見ます。	350%	(注2)
資金不足比率	公営企業として実施している事業ごとに、収支が赤字なのか黒字なのかを見るための指標です。赤字の時に、赤字額を事業規模と比べて、赤字の大きさを見ます。	(注3)	(注3)

(注1) 連結実質赤字比率については、3年間の経過措置基準が設けられています。(平成20~21年度:40%、平成22年度:35%、平成23年度以降:30%)

(注2) 将来負担比率には、財政再生基準はありません。

(注3) 資金不足比率については、経営健全化基準のみであり、普通会計の財政再生基準に該当する基準はありません。

## 洞爺湖町の19年度決算における比率と対策の方向性

	19年度決算による比率	
実質赤字比率	-	<p>平成20年度決算で、洞爺湖町は健全化判断比率のうち実質公債費比率により早期健全化団体となります。この比率の改善に向け、返済額以上に借金をしないことはもちろんのこと、新規事業による新たな借金の抑制に努めることとしています。</p> <p>しかし、洞爺湖町の財政は、当該年度の収入で支出を賄っておらず、一般家庭の貯金に当たる基金を取崩してやりくりしているのが現状であり、この現状が続けば、数年以内には赤字となります。この現状を打開するためには、収入を増やす、または、支出を減らして、収入に見合った支出となる状況をつくらなければなりません。</p> <p>したがって、一定程度の痛みを伴う改革に着手しなければならないと考えています。</p>
連結実質赤字比率	-	
実質公債費比率	29.9%	
将来負担比率	230.7%	
資金不足比率	-	